

帯広市男女共同参画情報誌

カスタネット

Vol.32 2016.10

第14回 女と男の一行詩・最優秀作品／育メン、家事メン 夫婦の絆に 効果てきめん

特集 教育における男女共同参画



- 帯広市男女共同参画セミナーレポート
- 教科書から見る男女平等教育
- 帯広市デートDV予防講座レポート(帯広三条高等学校)
- 女性情報コーナー紹介
- 男女共同参画推進員になりませんか?

「カスタネット」とは…2枚の丸い木が合わさり音が出る楽器から、女性と男性が共に歩むイメージを表現したものです。

帯広市男女共同参画セミナーレポート

「子供の笑顔が輝くまち

～女と男のより良い

パートナーシップから～」

帯広市男女共同参画セミナー



▽2016年9月17日(土)とかちプラザ視聴覚室にて、恵泉女学園大学学長の
大日向雅美さんに性別役割分担意識にとらわれない子育てや子育ての大切さにつ
いてお話しいただきました。

2015年は国連が誕生して70年、日本
が女子差別撤廃条約に批准して30年という
歴史的に特別な年でした。国連憲章では平
和の実現のために男女の性差別を含めたあ
らゆる差別の撤廃が必要だとされています。
男女共同参画のスタートは平和であり、
歴史的に見ると今は着実に良い方向へ進ん
でいる。しかし本当に良い時代だと言いき
れるのかというところはまだ課題が多いとい
う現状です。

「女性に立ちほだかる壁」

女性には人生において、いくつも壁があ
ります。結婚・子育て・介護とありますが、
社会に出た女性にまず立ちほだかる壁は就
職です。

雇用機会均等法が施行され、昔のように
女子学生が門前払いということはありません
でした。しかし、今も採用時は女性が多い
職場でも、年数が経つにつれて結婚や出産
子育てで辞めていってしまう女性が少なく
ありません。官公庁や大企業の実務職、大
学の教授職等の女性割合は10%以下です。
これは個人の問題以上に職場環境の問題が
大きいとされています。国際的に見ても、
これほど女性が高等教育を受けているのに
社会参画率が低い国はほとんどありません。
都市部では待機児童問題があり、子育てを
しながら働くという環境が整備されている
とは言えない現状があります。

「孤育て」を強いられる母親」

日本の長い歴史の中で、昭和の初めまで
は、母親は子どもを生んだら育児に専念す
るという考えはありませんでした。昔は大
家族の中や地域で子どもを育てるのが当
り前で、育児はお母さんだけの仕事ではな
かったのです。

戦後の高度経済成長を境に日本の産業構
造の変化や核家族化が進む中で、男性が働
いて女性が家庭を守るという体制がつくら
れ、子育ては女性の仕事という考えがだん
だんと広まりました。そして、女性が家事
育児を担っているのだから、子どもの教育

講師

大日向 雅美 さん

(おおひなた まさみ)

■プロフィール

2016年4月に恵泉女学園大
学学長に就任。1970年代初め
のコインロッカー・ベビー事件以
来、40年余り母親の育児ストレス
や育児不安を研究。NPO法人
「あい・ぽーとステーション」代
表理事、子育てひろば「あい・ぽー
と」施設長として地域の子育て・
家族支援に取り組む。



「子どもの笑顔が輝くために」

は母親が全責任を担うべきだという母性観
が定着していったのです。この頃から母親
の育児不安や育児ノイローゼという現象が
はじまるようになりました。
今の子育てへの不安や母親の抱えるスト
レスは社会構造の問題です。
子育てが終わると介護もあります。夫の
親の介護は嫁がやるのが当然と思っている
家庭や地域もまだあります。

大切なのはお互いの人生に関心を持ち合
い、尊重し合うことです。男女共同参画と
いっても、何も家庭で男性と女性が全く同
じことをしなければいけないということでは
ありません。女だからこう、男だからこ
うと型にはめるのではなく、それぞれの生
活事情に応じた役割の分かち合い方があつ
てもいいのではないのでしょうか。家庭の中
で夫婦として互いに尊重し合う両親の姿を
見て、子どもたちは育っていきます。ひい
てはそれが子どもの人生をあるがままに受
け入れることにもつながっていくのだと思
います。

「老若男女共同参画で 新たな地域の創造を」

私が子育てをしていたとき、近所のおば
あさまにいろいろと助けていただきました。
好意に心から感謝しつつも恐縮する私に、
その方は「周りに上手に甘えることが大事
ですよ」「いずれゆとりができたら他の人を
助けてあげて」と言って、「人生は支え&支
えられてお互いさま」の言葉を贈って下さ
いました。この言葉が、私の子育て支援活
動の基本となっています。

教科書から見る男女平等教育

高等学校で学ぶ『家庭基礎』



日本が女子差別撤廃条約に批准して昨年で30年。批准の条件の一つに挙げられたのが家庭科教育の男女必修・必修でした。

そこで今回、市内の高等学校で使われている家庭科の教科書がどのような内容になっているのか調べてみました。

家庭科といえば衣・食・住が中心だと思われがちですが、家庭基礎の教科書を見ると、まずはじめに男女共同参画社会の目標や課題などが、カラー印刷で分かりやすい図やグラフを用いて丁寧に説明されています。私たち男女共同参画推進員が日々話し合ったり、学習を重ねている内容が大方掲載されており、今はこういった授業を高校時代に男女ともに学習していることに深く感動しました。

また、どの教科書にもキーワードになる言葉として、「性別役割分担意識」「女子差別撤



廃条約」「男女共同参画社会基本法」などがあり、その説明もされています。

また、用語等の説明だけではなく、今は共働き世帯のほうが多いにもかかわらず、諸外国に比べて日本は職場における女性の管理職登用が進んでいないなど、男女共同参画が実現されていない側面もあるなどといった問題の指摘もされていました。

育児に関しては、イクメンの紹介やワーク・ライフ・バランス先進国である北欧の現状が紹介されており、性別役割分担意識を取り除き、男女ともに仕事も家庭も、という意識の確立が求められることや、そのためには職場での長時間労働の見直しが必要と記載されていました。

また、現代社会の教科書においても、内容は簡単にまとめられていますが、用語などについては同じように触れられていました。

こういった内容を高校生のときに男女ともに学ぶことで、自分も積極的に子育てにかかわりたいと望む男性が増えるなど、男女共同参画に関する意識が広がっていくのではないのでしょうか。

帯広市デートDV予防講座レポート

in 帯広三条高等学校



デートDV（若年層における交際の暴力）を未然に防止するため、帯広市では年に数回、市内の高校等で講座を開催しています。

2016年9月21日（水）、

NPOピーチハウスの志堅原郁子さんと山田さおりさんを講師に迎え、帯広三条高等学校の二年生を対象にデートDV予防講座が開催されました。大人の間で起こるDV（配偶者等からの暴力）とデートDVの構造は全く同じです。

身体的暴力以外にも精神的暴力や性的暴力などがあり、相手を自分の思いどおりに支配しようとする態度や行動がDVにあたります。もし相手と一緒にいるときに緊張や恐怖を感じることがあれば、デートDVが起きているかもしれないと疑ってみることも必要

です。また、暴力を選ぶ人は女らしさや男らしさに対する決めつけ（ジェンダーバイアス）や暴力容認の意識が強い傾向があると話されていました。

取材を終えて

講座の取材を終えて、DVやデートDVは自分の周りや身近なところで起こりうるものなのだと思います。デートDVの背景にあるものとして、イジメや差別、環境などさまざまな問題があるのではないかと感じました。

▼帯広市が発行しているデートDV防止パンフレット



▲生徒がロールプレイングを行う様子

とかちプラザ 女性情報コーナー紹介

ひとひと
女と男の一行詩作品展や、男女共同参画週間などにあわせたパネル展を行っていることもあります。
ぜひお立ち寄りください。



とかちプラザ

(帯広市西4条南13丁目1)

1階総合案内横



ご利用時間／9：00～20：00 お休み／月曜日（祝祭日の場合はその翌日）

●女性情報コーナーを利用してみませんか●

とかちプラザ1階総合案内横の女性情報コーナーでは、他都市の情報誌や市内団体の活動ファイル、男女共同参画に関するものを中心とした本やビデオを備え、貸し出しも行っています。

とかちプラザを利用する際は、ぜひお立ち寄りください。

男性の利用も歓迎しています！



本・ビデオの貸し出しは、とかちプラザ1階／総合案内カウンターまで
＜身分証明書（運転免許証か保険証、学生証など）が必要です＞

あなたも男女共同参画推進員になりませんか？



▲子育て支援センターすずらんでの出前講座の様子

帯広市男女共同参画推進員は、市民協働のパートナーとして帯広市と一緒に男女共同参画を広げていく市民ボランティアです。

活動内容は、男女共同参画の気づきとなる朗読劇を中心とした出前講座や年に二回発行している情報誌「カスタネット」の企画・編集、男女共同参画セミナーの企画などです。

帯広市民の方が、市内で勤務または活動している方ならばどなたでも応募できますので、詳しくは男女共同参画推進課までお問い合わせください。

皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

〒080-8670

帯広市西5条南7丁目 帯広市役所 男女共同参画推進課

電話：0155-65-4134 F A X：0155-23-0171

電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

平成28年10月発行

●発行：帯広市

●企画・編集：帯広市男女共同参画推進員

川尻れえ子・清水マチ子・池田 淳一

伊藤 容子・遠藤 妙子・沼田 秀実

浦端 昭道・宮本奈津子